



京都 YWCA

7 2021



古都に咲いて100年



親子ライブラリー 20 周年 親と子が育ち合う場を提供しつづけて



「絵本の世界」講座から実践の場づくりへ

子育て支援という言葉が市民権を得たころ、「子どもが楽しみ、親が育つひととき」をコンセプトにした京都 YWCA の「絵本の世界」講座は大盛況で、2001 年受講生から自主活動のニーズが高まり、親子ライブラリーの立ち上げに繋がりました。京都の文庫界のレジェンド、司書、児童文化研究者、京都 YWCA 元会長などがメンバーに名を連ねるなか、子育て真っ最中の受講生もよく分からぬまま加わりました。何度も協議を重ねた末に活動理念は「このライブラリーは国籍、言語、文化、宗教、障がいの有無などの違いをこえて、それぞれが育ち合うことを大切にしています」という文に帰結しました。

夏のイベントを経て、満を持して 12 月に第 1 回親子ライブラリーを開室しました。蔵書はわずかでしたが、1 冊 1 冊吟味したものを並べて、何度も下読みをしました。活動を通して、親も子も異世代、異年齢のコミュニティを獲得し、絵本を介し豊かな経験をして、参加者ばかりでなくスタッフの子育ても随分支えられました。

京都 YWCA の一員として

2007 年に「絵本の世界」講座 10 周年記念イベントを児童文化研究会と共催したことにより、子どもの教育を考える委員会（後に親・子育て支援活動委員会）とも連携し委員会所属のグループとして活動するようになりました。委員会主催の「親と子のリズム遊び」の日に合わせてライブラリーを開室し、参加者に絵本を読み、貸し出しました。クリスマス集会や「ガジュマルの樹」（小学生対象の居場所プログラム）など京都 YWCA の色々な場面で絵本から広がるプログラムを披露しました。また、京都地域文庫連絡会や京都子育てネッ

トワークへの加盟により、地域で活動する機会が増え、京都市立中央図書館やこどもみらい館など大勢のお客さまの前でパフォーマンスをするのはやり甲斐もありました。これを可能にしたのは、脚本・演出、舞台美術、裁縫、朗読などの才能に溢れるスタッフの存在と、おはなしボランティア研修などでスキルアップを続けた努力の賜物です。

京都 YWCA から地域の子どもたちへ

来室者減少など問題に直面するたびに、ボランティアとして活動する意義を考え、新しいことにチャレンジしました。2009 年には京都第二赤十字病院の訪問を始め、毎月入院中の子どもと付き添う家族に絵本を楽しんでもらいました。東日本大震災後、2012 年に福島県新地町の仮設住宅などを訪問してお楽しみ会を実施した際、高台から見た風景は今も心に刻まれています。2014 年からは京都 YWCA のうららかふえで月 1 回絵本かふえを実施し、リズム遊びに参加した親子がランチを食べておしゃべりをし、絵本を楽しんで帰るという流れができました。

2020 年に京都 YWCA あじさい保育園が開園し、園児に向けた読み語りと地域子育てステーションとしての親子ライブラリーの開室が始まりました。寄付や助成金で 1000 冊以上に増えた絵本はあじさい保育園の蔵書の核になりました。また、20 年の時を経て園の保育方針に親子ライブラリーの理念の一部が引用されたのは嬉しい驚きでした。子どもたちが目を輝かせて絵本を聴き、「もう 1 回」とリクエストしてくれると心底嬉しくなります。この喜びを共有し、子どもをとりまくあらゆる人とともに心豊かな場を作る活動を、次世代に繋いでいきたいです。

（平野富希）



2002 年 2 月 第 4 回 親子ライブラリー



京都市中央図書館でのお楽しみ会



あじさい保育園での親子ライブラリー開室

イースター & 世界 YWCA 会員日集会報告

4月17日、京都YWCA主催によるイースター & 世界YWCA会員日集会が開催されました。今回の集会はZoomによるオンラインで行なわれ、京都だけでなく、名古屋、神戸、大阪を含む四市のYWCA会員が参加するものとなりました。

参加地域 YWCA の活動紹介

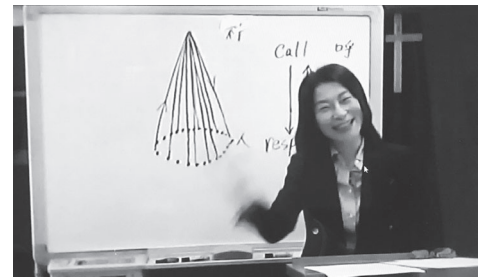
まず最初に各YWCAから昨年度の活動や会館の紹介が行なわれました。どのYWCAも新型コロナウイルス感染症による活動の制限を受けながらも、必要とされる支援を続ける努力をし、オンラインを導入した新しい活動方法の模索を迫られています。そんな緊急事態のなか、マスク品薄時期には、神戸YWCAはホームレスの方へのマスク配布を行っていたそうです。こうした支援は、日々継続的に地域に根ざして活動している地域YWCAだからこそできることであろうと、非常に感銘を受けました。

一方で、四市YWCAはそれぞれオンラインでの活動も活発に展開していました。特に名古屋YWCAはオンラインによる語学教室の開催をきっかけに、より円滑にオンライン活動ができるように機材を揃え、現在はプログラムのYouTube生配信も進めているということです。また、大阪YWCAや京都YWCAで若い女性のエンパワーを目指す委員会が新たに発足するなど、世界的に活動が制限される状況のなか、歩みを止めないYWCAの会員の力強さを感じることができました。

牧師の増田琴さんによるイースターメッセージ

次に、経堂緑岡教会の牧師である増田琴さんより、イースターにちなんだメッセージ（世界YWCA会員日集会の「YWCAリーダーを祝福して」に沿ったお話）を聞きました。私を含め、他者（隣人）は「神からのcall（召命）」を受けており、私と他者は神のもとに繋がっているというキリスト教理解から、「他者の尊重」の根拠に導いてくださった増田さんのお話はとても分かりやすかったです。この話をここで簡単にまとめることはできませんが、人間の尊厳を大事にすることを活動の支柱としているYWCAにとって、とても大事な視点を提供してくださったように思います。

（片岡英子）



増田琴さん

新職員紹介

中村仁美さん

今年度4月より受付、サービス付高齢者向け住宅「サラム」、多文化共生委員会、会館部で勤務している中村です。



1カ月は自分の仕事を覚えること、YWCAがどのような活動をしているかを知ることによってアツという間に過ぎてしまいました。胸を張って「これはできます」と言えるものはないのですが、一つ一つの仕事の意味を理解して、穏やかに笑顔で対応していきたいと思っています。昨日より今日、今日より明日、少しでも何かできるように。よろしくお願いします。

辻川さとみさん

大学を出て大阪YWCAの職員になった年の夏、京都YWCA会員の太田緑さんにつれられて、初めて京都YWCAに足を踏み入れました。それから40年（?!）今年の4月から自立援助ホーム「カルーナ」と高齢者向け住宅「サラム」でお仕事をするようになりました。御所の緑を眺め、新しい出会いに胸をわくわくさせながら週に3日通っています。YWCAは運動体であり全国組織であることを意識しつつ、京都YWCAでは職員、大阪YWCAでは会員という二足のわらじをしばらくの間やってみようと思います。



三上 彩さん

この4月より自立援助ホーム「カルーナ」のスタッフとしてお世話になっております。長年児童養護施設の職員として勤務し、カルーナとはアフター支援で関わらせて頂いていましたが、まさかスタッフとして働くことになるなんて・・・何が起るか分かりません。日々、入居者退所者の女の子たちと色々な話を楽しく過ごしていると同時に、沢山のことを学ばせてもらっています。



京都YWCAの歴史をふりかえるプログラム①

40周年誌『古都に咲いて40年』読書会に参加して

2023年に迎える創立100周年に向けて、100周年記念実行委員会が立ち上がり、京都YWCA内の各所で盛り上がりを見せています。本紙でも100年の歩みが紹介されていますが、京都YWCAの歴史を知り「これからの100年」を考えるシリーズ企画として、5月29日に40周年誌読書会が開催されました。

会館内3カ所と参加者の自宅をオンラインでつないで行われましたが、そういったハイブリッドでのプログラムは「当たり前」になり、運営側も参加者も慣れたもの。100年前の会員がこの様子を見たら、びっくり仰天することでしょう。

プログラムは、最初に日本YWCAが作成したDVD『女性の自立をもとめて』を視聴。産業革命後のイギリスで、祈りと生活の場を二人の女性が作ったことから始まるYWCAが、日本で種を蒔かれ芽吹く過程を観ました。続いて、40周年誌の内容をまとめたレジュメをもとに解説がありました。希望者には事前に40周年誌のスキャンデータが配布されましたが、解説とレジュメがあることによって、年誌を読む機会がなかった人も必要な知識を持って、プログラム最後のグループセッションに臨むことができました。小グループでは、「京都YWCAが社会的に行ってきたこと」「会館・職員を持つ地域YWCAとして」「100周年に向けて」という3つのトピックスを中心に、読書の感想も加えながら交流を行いました。

いました。

大正時代に外国人幹事によってもたらされた、より良きことを「自ら考え、自ら行動する」という精神は、当時社会で抑圧されていた女性の目を開かせました。戦中・戦後の厳しい時期を何とか乗り切り、常に経済的課題を抱えながらも、工夫と協働でもって平和な社会の実現を目指して拓いてきた道が、今につながっていることを実感するひと時でもありました。

参加者の中に、長く各地のYWCAに関わり、現在会館内の高齢者住宅「サラム」に住んでいる方がおられ、「今もなおYWCA運動が続いている背景には『キリスト教』という基盤があったからだと思う」と言われました。

誰にでも開かれている大きな受け皿をつくってきたものが信仰心であったことに改めて気付かされました。

(別所加恵)



長くYWCAと並走くださっている長塩さんと歴史を振り返りました



シリーズ——

京都YWCA100年の歩み(3)

ベトナム戦争や日米安保条約に反対する運動が激化した1960年代から70年代、京都YWCAも平和や憲法について積極的に取り組みました。1964年から数年間、小型のキット「憲法シリーズ」が会員に送られましたが、そこには平和憲法を生活の中に活かすという視点が盛り込まれました。

「戦争体験を話し合う会」が開かれ(1965)、護憲の立場から靖国問題、安保問題、部落差別、婦人の地位などについての研究会がもたれました(1968)。「徐君兄弟を守る運動」*も始まりました(1971)。

1970年、日本YWCAは「『核』否定の思想に立つ」を掲げ、京都YWCAでも8月の平和集会、原爆絵画展、12・8集会、4・29の昭和天皇の誕生日を考える会、2・11集会が次々におこなわれ、継続されていきました(～80年代)。

会館の建設とオープン・メンバーシップ導入

また日本YWCA総会の決議(1970)に基づき、クリスチャン、ノンクリスチャンによる会員の区別をなくす「オープン・メンバーシップ」に踏み切りました(1973)。改めて「キリスト教基盤とは」が問われ、「聖書との出会いシリーズ」が開始され(1980)、「キリスト教基盤プロジェクト」が発

足しました(1993)。

1934年に買い取られた会館は老朽化が懸案となっていたところ、日赤の看護婦寮とのタイアップという話が持ち込まれ改築に着手、1967年4月に5階建ての現在の会館がオープンしました。寄付金、会費は予定通り集まりましたが、銀行からの借入も少なくなく、眠れない夜を過ごした理事もいたとのことでした。

1979年から、京都府が開発した大規模な「洛西ニュータウン」で場所を変えながら、子どもや母親対象の様々なプログラムが精力的に試みられました。1991年に築110年の自宅解放と協働の申し出があり、洛西センター「じゃむじゃむ」が誕生しました(2001年まで)。地域の母親らとともにチェルノブイリ写真展、バザー、料理教室、母と子のリズムなど多彩なプログラムが催されました。

*京都生まれの韓国籍をもつ兄弟がスパイ容疑でソウルで逮捕され、兄に死刑、弟に懲役15年の判決がくだった。



YWCA 洛西センターで開かれたバザーの看板

「京都 YWCA100 周年記念募金」 ご協力のお願い



京都 YWCA は 2023 年に 100 周年を迎えます。女性の社会的立場が弱かった戦前から、キリスト教を基盤にして女性を支援する事業・活動を推進してまいりました。現在、年齢や文化的背景の異なる人々が出会い、協働する「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」事業を推進しています。

この歩みをさらに前進させるために、100 周年記念募金を実施いたします。ご寄付は以下の目的に充てられます。皆さまのご支援をお願い申し上げます。

●担い手育成・次世代育成のために

社会貢献活動を支えていく人材、未来を担う人材を育成します。

●保育環境の向上のために

2020 年 4 月に開園した京都 YWCA あじさい保育園の保育環境を向上させていきます。

●W・M・ヴォーリズ設計「サマリア館」の補修のために

1936 年に建設された歴史的価値をもつ木造建物サマリア館を次世代に引き渡していきます。

●歴史を未来に引き継いでいくために

記録資料のアーカイブ化、100 周年記念誌の製作などを行います。

目標額：1,000 万円

募集期間：2021 年 4 月～2024 年 3 月

募金額：個人 1 口 3,000 円

団体・企業 1 口 10,000 円

郵便振替 01080-9-1566

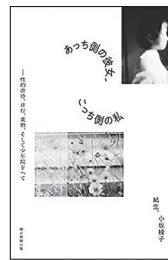
加入者名 公益財団法人京都 YWCA

その他の京都 YWCA へのご寄付の詳細は事務所に問い合わせさせていただくか、ホームページをご覧ください。

<http://kyoto.ywca.or.jp/support>



おすすめ！



『あっち側の彼女、こっち側の私』
—性的虐待、非行、薬物、そして少年院をへて—
〈著者：小坂綾子、結生 出版社：朝日新聞出版〉

著者 結生さんからの言葉

親から虐待を受けて育ち、非行に走って少年院に入った私は、ずっと自立の意味を履き違えていました。京都 YWCA 自立援助ホーム「カルーナ」は、そんな私に自立の本当の意味を考えさせてくれた場所でした。この本では、私の幼少期から、少年院をへてカルーナで過ごし、社会参加するまでを綴っています。カルーナでの生活には生きていく上でのヒントがたくさん詰まっていること、そして、支援者や、さまざまな立場の人とのつながりがあって成長できたことを、この本を読む人たちに感じてもらえれば嬉しいです。

ご協力ありがとうございました

2021年4月1日から5月31日 寄付者一覧(敬称略、順不同)

一般寄付

日本キリスト教団京都丸太町教会

各指定寄付

*100 周年記念募金

鍛冶富美子、中村和雄、本田次男

*親・子育て支援活動委員会

寺田有古、室紀子

*多文化共生委員会

浅野献一、富田京子、稲野真喜子、
神門佐千子、田中寿明、田中順子、
坂井サト子、杉山麗、青井裕美、
太田昭子、大畑京子、富田学、匿名

*APT

リンパヤラスブルーニー、
御前明美、手島千景、上原従正、
神門佐千子、石井ゆき、大手理絵、
田中順子、土田亘、飯田奈美子、林律、
荒垣加津子、齊藤洋子、大西澄子、
大畑泰次郎、本田次男、
日本キリスト教団洛陽教会、匿名

*京都 YWCA あじさい保育園

岡佑里子、匿名

*自立援助ホーム「カルーナ」

河合由美子、吉武恭子、神門佐千子、
森のの子、吉村富式、齊藤洋子、
若尾典子、山崎美和子、中野おかり、
大山悠子、小川久美子、横川幸治、
館山英夫、小林裕彦、永井潤子、
近野玲子、織田雪江、竹之下雅代、
近藤八津子、野崎千代、堀部碧、
都木おかり、大槻裕樹、
イエニックふたみ、
西村由里、小宮一子、篠田茜、
マラナタ会、
日本キリスト教団京都丸太町教会

*賛助費

清水義、日月公子、井原圭子



5・6月／理事会報告

- 再度の京都府緊急事態宣言を受けて貸室を停止し、うららかふえではランチの外部からの新規利用を停止。
- 京都 YWCA あじさい保育園では、5 月より毎週 1～5 歳児対象に「リズム遊び」を、4、5 歳児対象に「えいごであそぼう」を取り入れる。
- 親子ライブラリーを園児向けに月 2 回、地域向けに月 1 回（第 3 木曜）実施。

- 100 周年記念募金の趣意書を発行、募金活動を推進する。
- 5/29：京都 YWCA の歴史を振り返るシリーズの第 1 回目「40 周年史を読む会」を実施（詳細は本紙 3 ページ参照）。
- 居場所プログラム「Chatting Café」を「うららかふえ」にて開始（定例で第 1 土曜日を予定）。
- ホームページに新たに「若者の活動」欄を設け、ツイッターやインスタグラムのボタンを加えてユース委員会の活動を紹介している。

KYOTO YWCA No.563 2021 年 7 月号（7月1日発行）

発行人：上村愈巳子

発行所：公益財団法人京都 YWCA

〒602-8019

京都市上京区室町通水上ル近衛町44

電話：(075) 431-0351

FAX：(075) 431-0352

e-mail：office@kyoto.ywca.or.jp

HP：http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替：01080-9-1566

口座名義：(公財) 京都 YWCA

定価：1 部 50 円

発行：奇数月 1 日発行